

ジオハザードインターナショナル財団(GHI)の 2014 年の活動のハイライトをご報告できて大変光栄です。私共は、世界で最も脆弱な地域社会において、災害が起こる前に被害を未然に予防し、人命を救い、被災者の数を減らし、明るい社会を築くお手伝いをしています。“災害に備える”とか“リスク”とかいった言葉は、皆さんの日々の思考からは縁遠いかもしれません。しかし、私共は、間違いなく、実際の問題に直面している実在の人々に寄り添って活動しています。彼らの現実の様子や私共の活動を通じて、何かを感じて頂ければと思います。



地震で傷んだ建物を使い続けることは安全でしょうか？

大地震は、何百、あるいは何千といった建物を瞬時に傷つけます。被災した人々がショックから立ち直る際には、どの建物は安全で、どの建物は危険か、すぐに知る必要があります。自分の家に戻っても良いのか？ 病院は、修理をすれば活動を続けても良いのか？ 学校は大丈夫か？ ブータンは大きな地震リスクに直面していますので、GHI は現地政府から、技術者が地震直後にこうした判断をするためのマニュアル作りを依頼されました。現地の建物の実情に合わせたマニュアルは、地震後の人々の安全と速やかな復興を助けるはずで



パキスタンでの地震工学講座から最初の修士が生まれます。

パキスタンの著名な工科大学で実施していたユニークな講座が 12 月に完了し、耐震構造工学の最初の修士が誕生します。パキスタンは、世界でも地震に対して最も脆弱な国であり、耐震設計の専門家が渴望されていましたので、この確かな一歩は、大学を遥かに超えた自信と喜びをもたらしました。GHI は講座の授業カリキュラムを作り、専門的な支援を提供しました。



病院が患者になってしまったら

大災害の後には、けがの治療のために多くの負傷者が病院に群れをなしてやって来ます。しかし、負傷を免れた人々にとっても病院は必要です。赤ちゃんが生まれそうな女性、高熱を出した子供、薬が必要な人々、それに慢性的な持病を持った人々などです。もし、病院そのものが被災してしまったらどうなるでしょうか？ GHI は、病院が非常時に医療を提供できるように、脆弱な病院の補強を手伝っています。



揺れる建物の中でどうしたら良いのでしょうか？

地震の揺れが襲ってきて、気が動転した数秒間の行動が、人々が難を免れるか被害にあうかを分けることがあります。では、どうしたら良いのでしょうか？ 一つの簡単な答えがあるわけではありません。低所得、あるいは中所得の国々では、いろいろな種類の建物が地震の揺れで被災します。ある行動は、ある建物では役に立ちますが、建物の種類が違えば役に立ちません。GHI は、実際の被害の様子を調べることで、建物の種類に応じた正確な対応方法と、それを一般の人々に伝える効果的な手段を開発しています。

1991 年に GHI が発足して以来、応用地質と応用地質の職員の皆様の支援のおかげで、GHI は今日まで活動を続けることができました。私共は、脆弱な社会に住む世界中の人々が、災害時に生き延びるのを手助けしています。ご支援に感謝致します。

ジオハザードインターナショナル財団理事長 ブライアン・タッカー (Brian Tucker)